

## 日本の伝統芸能に触れました

### 小学生が「能楽」を体験

3月2・3日、古典芸能伝承の館「碧水園」で、市内4つの小学校の児童が「能」と「狂言」の鑑賞・体験をしました。

子どもたちに伝統芸能や芸術などに触れてもらい、関心を高めてもらおうと文化庁が主催する「文化芸術による子供育成総合事業」に本市が選ばれ、プロの能楽師のより「能」と「狂言」が披露されました。公演は能楽団体「草風会」が担い、この日は能「羽衣」と狂言「柿山伏」を上演。笛や太鼓・鼓の音色の中で舞う能と、掛け合いがコミカルな狂言を堪能しました。

上演後は、代表の児童6人が舞台上で、指導を受けながら狂言のシーンを体験。柿の実を食べたり動物をまねたりと、狂言での動きや表現を練習しました。

児童は「初めて能や狂言を見て面白かったです」「動きを表現するのが難しかったです」と話していました。



1\_能の演目「羽衣」を鑑賞 2\_狂言「柿山伏」で、柿の実をもぐ仕草の演技指導

## 災害時にも温かい料理を

### 外国人向け救急講習

2月25日、白石消防署が主催する「外国人向け救急講習会」が中央公民館で開催され、市内や近隣で働く外国人6人と、国際交流ボランティア5人が参加しました。

外国人の方にいざというときの救命方法を学んでもらおうと、今回で2回目の開催。AEDの使い方や心肺蘇生法を学びました。講習では外国人に伝わりやすいように配慮された「やさしい日本語」が使われ、参加した外国人は「説明がわかりやすかった」と話していました。



▲心肺蘇生法を学ぶ外国人の方（奥2人）

## 大好きな幼稚園に「さよなら」

### 白石市第一幼稚園「卒園式」

3月17日、白石市第一幼稚園で卒園式が挙行され、卒園児20人が晴れの日を迎えました。

式典で卒園児は、一人一人が佐々木淳子園長先生から修了証書を受け取ると、将来の夢を堂々と話しました。在園児からはビデオレターでお祝いの言葉や歌が送られ、卒園児はお別れの言葉や歌を通して、幼稚園や先生方、保護者の皆さんに感謝の気持ちを伝えました。

3月末で休園となった同園では、これまで4,327人が卒園していきました。



▲卒園児と保護者、先生方で記念撮影

## 春の訪れを感じながら

### 「寒ざらしそば」の提供がスタート

3月18日、材木岩公園内の検断屋敷で「寒ざらしそば」の提供が始まりました。寒ざらしそばは、大寒の日から約2週間、蔵王の清流に浸したそばの実から作ったもの。冷たい水に浸すことでアクが抜けて甘みが増し、ツルっとした喉ごしが特長で、春を迎えるこの時期、多くのそば愛好者に親しまれています。

数量限定の寒ざらしそばは、市内では材木岩公園内のなごみ茶屋で提供され、例年4月末ごろまで楽しむことができます。



▲普通のそばとの食べ比べも楽しめます

## 外からみた本市の魅力とは

### 地域おこし協力隊による地域づくり研修会

3月18日、「地域おこし協力隊を活用した地域づくり」研修会を市役所で開催しました。研修会では3月末で任期を終えた本市地域おこし協力隊の竹田祐博さんと青木依里さんから、これまでの活動とこれからの白石の地域づくりについて報告と提言がありました。

竹田さんは白石産ササニシキ復活プロジェクトや農産物のブランド化などに携わった経験から、「地元の人から地域の良い所を発信してほしい。それをきっかけに関心を持った人が観光に来てくれて、定住につながると思います」と話してくれました。

青木さんは特技のイラストを活かして作った「白石の人マップ」で移住者が地域とのつながりを持ちやすくする取り組みを通して、「移住者は地元の人とのつながりを求めている。気軽に声をかけてもらえると嬉しいと思います」と話してくれました。



1\_2人からそれぞれ活動報告をもらいました 2\_担当課職員と地域づくりについてのトークセッションを実施